

# 琉球病院 Monthly

独立行政法人  
国立病院機構 琉球病院  
National Hospital Organization RYUKYU Hospital

Vol.66  
2018. June

発行者 琉球病院事務部長  
秋好 輝雪

## 基本理念 この病院で最も大切なひとは医療を受ける人である

### 沖縄県重症心身障害児(者)を守る会定期総会について

療育指導室長 金城安樹

4月29日、沖縄県重症心身障害児(者)を守る会の定期総会・講演会が琉球病院で初開催され、沖縄県障害福祉課課長や県内の療養介護施設長等、多くの参加がありました。

今回は「動ける重症心身障害者の現状と課題」をテーマとし九州・沖縄副ブロック長、野崎秀輝氏(佐賀県)の講演が行われました。福祉制度の変革について、歴史的な経緯から現在に至るまでの説明がされ、当院が抱える課題そのものでした。当院にはいわゆる動く重症心身障害者病棟があります。昭和42年、重度の肢体不自由児と家庭内療育はもとより精神薄弱児施設での集団生活指導が困難なケースについては次官通達により重症児施設への入所が認められてきました。現在も医療体制の整った重症心身障害医療の枠組みで処遇されています。しかし、平成22年の児童福祉法の改正以降、身体障害のない新規入所希望者が療養介護の対象外となる事がみられてきました。沖縄県重症心身障害児(者)を守る会は、このような状況を危惧し、家族の視点から考える機会を提供して頂きました。



第28回 定期総会  
沖縄県重症心身障害児(者)を守る会

動く重症心身障害者の療養介護認定問題に対しては、国立病院機構共同臨床研究指定研究に参画し、医療的機能について示唆すると共に、重症心身障害児(者)を守る会との連携を強めていく事が必要と考えます。

私どもといたしましても、利用者の福祉が損なわれる事がないよう、支援させて頂ける環境が整う事を願います。

## トピックス

### 行事・出来ごと

- 病棟等建替 進捗状況 本体工事：新病棟(第1期工事)完成 ..... 平成27年7月
- 整備の動き 雨水配水管盛替工事 完成 ..... 平成29年2月
- 新病棟(第2期工事) 完成予定 ..... 平成30年10月

### 教育・研修

- CVPPP(包括的暴力防止プログラム)院内トレーナー研修
- 日時：平成30年6月25日(月)～28日(木)8:30～17:00 対象：院内職員
- 場所：琉球病院研修棟会議室・北館ジム室

## ● 地域医療連携室だより

琉球病院では、アルコール依存症の専門治療を行っております。「お酒を飲むとつい飲みすぎてしまう」「健康診断で肝臓の値が悪いと指摘をうけた」「酒の件で夫婦喧嘩が増え家族との関係がぎくしゃくしている」等、困りごとがあれば一人で悩まずご相談下さい。またアルコール問題をもつ方のご家族を対象とした家族教室を、毎月第2、4金曜日13時半～15時半で実施しています。お気軽にお問合せ下さい。

※お問い合わせ先：地域連携室 098-968-2133 内線 231・234



空床状況  
5月30日現在

精神科病棟  
13床

認知症  
9床

アルコール  
12床

児童思春期ユニット  
2床

※ 入院予約に関するお問い合わせは地域医療連携室へご相談下さい。

## 院長

福治康秀(ふくじ やすひで)  
1964年生まれ、那覇市出身、  
首里高校卒。

1993年琉球大学医学部卒、  
琉球大学医学部精神神経科入局。  
95年那覇市立病院精神科、96年  
琉球大学精神神経科、2009年琉球病院精神科部長、  
2010年副院長を経て2014年琉球病院長に就任。  
日本病院・地域精神医学会理事。



## 診療科

- 一般精神科
- こども心療科
- 物忘れ外来
- アルコール依存症等外来

## 病床数 406床

- 精神科病棟 181床
- 認知症 50床
- アルコール 54床
- 児童思春期  
ユニット 4床
- 重症心身  
障がい 80床
- 医療観察法 37床



那覇市からのアクセス



## ● アクセス

路線バス/ 那覇BS(下り)または名護BS(上り)より沖縄バス  
[77番名護乗換]浜田バス停下車徒歩3分  
自動車/ 那覇市から40分  
沖縄自動車道金武インターから名護向け5分

## NHO PRESS~国立病院機構通信~について

国立病院機構通信  
PRESS  
琉球病院は、国立病院機構  
(NHO: National Hospital  
Organization)という143の病院  
からなる国内最大級の病院ネット  
ワークの病院です。  
国立病院機構(NHO)という病  
院ネットワークが、どのようなグループでどのような活動  
をしているのかを紹介する「NHO PRESS~国立病院  
機構通信~」を発行しています。外来ロビーに設置し  
てありますので、ぜひご覧になってください。  
なお、ホームページに最新号と過去のものを掲載して  
いますので、そちらもぜひご覧になってください。「NHO  
PRESS」で検索してください。

NHO PRESS 検索 QRコード

## お問い合わせ時間

8:30～17:15(土・日・祝日以外)  
TEL: 098-968-2133(代)  
内線: 231・234

地域医療連携室(直通)  
TEL: 098-968-3550  
FAX: 098-968-7370

## 治療抵抗性精神疾患への医療



### クロザピンの治療状況

平成22年から治療抵抗性統合失調症の患者様に対してクロザピン (CLZ) 治療を開始し、全症例は236例になりました。平成30年4月のCLZ導入は5例で、そのうち2例は他の病院からのご紹介の患者様(入院中0例、通院中2例)でした。CLZ治療前には暴力行為や多飲水などの問題行動のために隔離が必要な患者様も多くいらっしゃいましたが、CLZ継続例では問題行動も少なくなり、隔離は解除できています。週に3回の専門外来も行っていますので、患者様のご紹介をお願いいたします。

### m-ECT (修正型電気けいれん療法) の治療状況

当院では、m-ECT(修正型電気けいれん療法)による治療を行っております。平成30年4月の治療実績はありませんでした。

## こども心療科

当院は、沖縄県から「子どもの心の診療ネットワーク事業」の委託を受け、子どもの心の診療拠点病院として地域の様々な機関とネットワークを構築し、子どもの心の健康をサポートするための取り組みを行っています。今回は、簡単ではありますが事業の取り組みについてご紹介します。

日頃より、地域の支援機関との連携会議に加え、子どもの心の診療に関心のある医療従事者の実地研修の場として、見学や陪席を受け入れています。また、年に数回、外部講師をお招きし、県内の支援者を対象とした研修会を開催しています。

本県の地域特性として離島が多いことが挙げられ、社会資源の限られた地域での支援体制整備も課題となっています。そのため、本事業を通して、離島地域の支援者との連携に関する会議を行ったり、子どもの心の問題に関する研修会を開催したりしています。

限られた時間や予算の中での取り組みであるため、不十分な点も多いのですが、今後も様々な機関と連携しながら、子どもの心の健康をサポートするためのネットワークづくりに取り組んでいきます。

## 認知症医療

梅雨入りし、ジメジメとした天気が続いていますが5月14日は天気も良く、病棟レクとして散策会を行いました。16名の患者様と看護師・作業療法士・心理士で敷地内にある東屋まで出かけました。病棟からの移動距離はありますが、皆さん足取りも軽やかに笑顔もあふれていました。東屋では雑談されたり、冷たいアイスコーヒーと美味しいお菓子を頂きました。わずかな時間ではありましたがとても有意義な時間を過ごすことができました。今後も計画的に病棟レクを開催していきたいと考えています。

## 重症心身障がい医療

西I, II病棟では多くの行事を計画しています。今回は病棟での行事の様子を紹介したいと思います。

### ①5月22日(火)クッキング

今回は「ホットケーキ」と「フルーチェ」を作りました。おいしく作るためにレシピを見ながら全員で協力して作りました。チョコレートやフルーツ、チーズ等トッピングもたくさんあり、おいしそうに食べられていました。やけどをすること無く、楽しく無事に終わることができました。

### ②5月17日(木)、24日(木)にグループ活動

名護方面へドライブに行きました。本来はカラオケとボウリングを予定していましたが、はしかの流行の関係でドライブに変更し実施しました。

両日とも晴天でドライブ日和となりました。車窓からの景色を楽しむ方や、おいしそうなおやつを食べられる方など、ゆっくりとした時間を楽しんでいる様子でした。

## アルコール・薬物依存医療

平成25年5月27日、アルコール依存症の新しい治療薬「レグテクト」が発売となりました。レグテクトは、アルコール依存症の方の強い「飲酒欲求」を直接和らげてくれる作用があります。当院では4月末現在、外来通院の患者様74名、入院中の患者様22名の方が服用されています。内服している方は「飲酒欲求が軽減した」と話され、再飲酒の抑制につながっています。また、当院の外来での調査では、レグテクト内服を継続している患者様の方が、治療継続率が高いという結果も出ております。患者様へは、適宜導入を勧めています。断酒が困難な方は、ぜひ外来を受診し相談して下さい。

## 包括的地域精神医療

平成30年4月の訪問看護ご利用者件数は、705件で新規申し込みが8名様でした。訪問看護は、北部全域から南は浦添市までの訪問看護を展開しています。うりずんの季節から夏の到来を感じる季節となりやんばるの大自然の中、いじゅの白い花が大群をなし利用者様の庭先にはピンクや白、紫と色とりどりのアジサイが咲き誇っています。自然の変化を訪問利用者様との話題としています。

梅雨の季節となり、一年のうちでも特に体調をくずしやすい時期でもあります。梅雨のジメジメした気候に負けず元気で過ごせるよう、食事・睡眠・適度な運動を意識し、健康管理に留意しましょう。

## 臨床研究部活動状況

『もの忘れ予防教室の実践活動と認知機能との関連について』 心理療法士 高江洲 慶

高齢化社会の進行とともに認知症対策が課題となる中、認知症の前段階である軽度認知障害(MCI)を対象とした予防プログラムが注目を集めています。当院でもH28年4月から認知機能低下の予防を目的として、「もの忘れ予防教室」という名称で外来受診対象の方を中心にプログラムを行ってきました。具体的には、①筋力の強化、身体バランス感覚の改善、有酸素運動といった身体運動、②運動と認知課題を組み合わせたデュアルタスク、③実生活での認知的な困り感を話し合うグループワーク、④日常生活で予防的取り組みの習慣化を促すホームワークの提供を行ってきました。加えて、当院で行うプログラムと認知機能との関連について検証も行いました。プログラム実施後の結果として、身体・認知機能の維持あるいは一部改善を認めました。また、参加者の中には自身の認知面の向上を自覚したり、抑うつ症状の改善がみられる方がおられ、認知面および心理面において予防的ケアの意義を見い出すことができました。